

令和5年度 奈良県立棲生昇陽・宇陀高等学校 学校評価総括表(年度末報告)

年度	令和5年度(中期計画2年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	いのちを大切にすることと未来を切り拓く力を育み、自信と誇りをもって地域に貢献する生徒の育成
令和5年度重点目標	<p>1 基本的生活習慣を確立し、正しい判断力と強い意志を養い、規範意識を高め自主的な生活態度を育成する</p> <p>○ルールを守る心を育て、礼儀やマナーを身に付けさせる</p> <p>2 基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着により、着実に学力を向上させる</p> <p>○基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着のため、PDCAサイクルにより、授業に工夫・改善を加える</p> <p>3 自ら考え主体的に行動できる力を育成し、体験的な活動により協働する意識と態度を育む</p> <p>○生徒会・各種委員会活動や部活動を活性化させて達成感を獲得させるとともに、協働する意識と態度を育む</p>

1 スクール・ポリシーの内容

入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>本校では、以下のような生徒を受け入れます。</p> <p>1 本校の教育方針を理解する生徒</p> <p>2 【普通科】 ICTの活用やグループワークなどにより学びを深め、主体的に自らのキャリアを形成できる力を身に付けて、文系大学等への進学を目指す生徒</p> <p>3 【情報科学科】 プロトタイプをしながら学ぶことから、実社会の問題を発見・解決する力や協働して取り組む態度を身に付け、理系大学等への進学を目指す生徒</p> <p>4 【こども・福祉科】 保育・幼児教育に関わるための基礎的・専門的な学び、介護福祉士国家試験合格を目指す専門的な学び、介護・医療を含めた福祉全般についての学び、これら3つの学びのうちから1つ以上を取り組み、地域の教育や福祉に熱意と意欲のある生徒</p> <p>5 【専攻科】 介護福祉士の国家資格を取得し、専攻科修了後、奈良県内の社会福祉施設等で介護の業務に従事する意思を有している者</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>本校では、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上、基礎学力の定着と応用力の養成、豊かな心の涵養、自己実現への主体的な態度の育成、及び地域社会に貢献する意欲と行動力の育成のために、以下の教育を行います。</p> <p>1 学校行事や課外活動を含む学校生活全般を通して、規範意識、人を思いやる姿勢、互いに成長し合える人間関係、及びコミュニケーションを育て協働する力を養います。</p> <p>2 基礎的・基本的な知識・技能の習得と応用力の養成により、着実に学力を向上させます。</p> <p>3 キャリア教育を充実させ、ICTの活用やグループ活動を取り入れて、「主体的・対話的で深い学び」を展開します。</p> <p>4 計画的・個別的なサポートにより、国家資格取得と検定合格に導きます。</p> <p>5 施設実習、保体(こ・中)や若むむ学校周辺地域との交流やボランティア活動により、学校での学びを地域社会の問題発見や解決に活用する力を養い、地域社会に貢献する意欲と行動力を育成します。</p>
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<p>本校では、卒業までに以下の資質・能力の育成を目指します。</p> <p>1 学校で身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を、上級学校での学びに繋げたり、地域社会の問題発見や解決に活用しようとするところができる。</p> <p>2 在学中に取得した資格、含めた検定を基に、就職先・進学先においてより専門的技術・知識を習得するために主体的に学び続けることができる。</p> <p>3 社会の一員として、よりよき社会の実現のために、協働を推進することができる。</p>

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(G)
1.こころと身体を子どもの成長に合わせてはくむ	体力の向上	新体力テスト体力合計点の全年平均48.0(各項目得点6点)以上	新体力テスト体力合計点の全年平均44.0点以上(各項目得点平均5.5点以上)	年度当初の1学期に新体力テストを実施し、全年平均は44.07点となり、各項目得点の平均は5.49点であった。夏期休業終了後に個人データを返却している。体育授業において全体的に不足している種目を説明するとともに、体力向上の必要性を説明し、体育授業内でのトレーニングを継続した。	年度末の目標値をほぼ達成できたものの、3学期においては持続的トレーニングを主とした内容となっていた。	新体力テストの内容が私自らよく理解できていないので、生徒は何ができて、何ができなかったのかわかりにくい。目標値よりも個人的な方策を意識できるように取り組まれた。	年度末の目標値にほぼ近い結果となったが、目標値を達成するため、体育授業内でのトレーニングを継続していく。
	望ましい運動習慣の確立	1日の運動・スポーツ実施時間30分以上の割合70%以上	1日の運動・スポーツ実施時間30分以上の割合40%以上	1日の運動・スポーツ実施時間30分以上の割合は41.3%であり、目標を上回る結果となった。体育授業及び保健授業において、運動・スポーツの習慣化に不足している種目を説明するとともに、体力向上の必要性を説明し、体育授業内でのトレーニングを継続した。	年度末の目標値を達成できた。また、高校卒業後の将来に向けた体力の保持・増進のための個人的な方策を考えさせる時間にも結びついた。	ここで問われている「運動」とは具体的にどのようなものを指すのか、教員と生徒の間で共有されているか否かで数値は変わる可能性があると思われる。将来につなげる体力・スポーツの習慣化の個人的な方策をさらに努めていただきたい。	年度末の目標を達成できたが、体育授業を中心にした取組を継続していく。授業の中で、運動・トレーニングの目的、意義等について解説する機会を増やす。
	望ましい食習慣の確立	朝食摂取率95%以上	朝食摂取率85%以上	朝食摂取率は最低目標値の85%、生徒自らが朝食摂取の重要性を理解できたと捉えられている。	年度末の目標値をほぼ達成できた。	基本的な生活習慣が確立されていることが何よりも大切なことで、今後も生徒に啓発してほしい。さらに啓発に努めていただきたい。	年度末の目標を達成できたが、季節的な影響による摂取率の変化も考えられるため、保護者の協力を得ながら、保健体育や家庭科授業のみならず、学校生活全般を通じ朝食摂取率の維持・向上に努める。
2.学ぶ力、考える力、探究する力をはくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業アンケートに対する肯定的な意見が平均90%以上	授業アンケートに対する肯定的な意見が平均85%以上	第2学期の授業アンケートの回答も、肯定的な回答が87%と高く、中間報告と同じ状況であった。肯定的な意見がほとんどの中で、授業の難易度に関する質問項目に対して、簡単な～難しすぎるの分散が大きい。	年度末の目標値を達成できたが、本校入学期において、学力差が非常に大きいという問題に対して一部課題を残す。	生徒意識調査について、改善傾向が顕著に見られた。全体として良い雰囲気を感じられる。授業アンケートの内容が十分に理解できていないので、生徒は何ができて、何ができなかったのかわかりにくい。分散の大きいところが課題と思われるので、集団の中で体験で平易化を大切にしていきたい。	各教科でアンケートの結果をもとに授業難易度の見直しを行い、適切な難易度で授業が行われるよう改善を図る。各種アンケート内容を、事前に学校関係者に公開する。
	教職員の資質向上	研修講座に参加・活用した教職員の割合90%以上 教員同士の授業公開期間を、年度3回以上設定する。	研修講座に参加・活用した教職員の割合90%以上 教員同士の授業公開期間を、年度3回以上設定する。	ほとんどの教員が夏期休業中の研修講座や学習指導研究会、各種校内研修等に参加し、研修を行った。 3月調査で38名の教員が研修に参加、参加率88.4%となった。	6月、1月に授業公開期間を設けたが、入試業務や新システム移行等で手が回らず3学期に授業公開期間を設けることができなかった。	学校現場の忙しさから、なかなか互いに授業を見合う時間が取れないことがかかえま。お互い積極的に平常より授業研修の習慣を進めて、生徒目線を大切にしていきたい。	研修講座の案内や授業見学の日程を周知し、教員が自己研鑽する機会を積極的に作る機運を高める。
	ICTを活用した教育の推進	教員の授業におけるICT活用研修を年2回以上実施する。 教員のICT機器利用率90%以上	教員の授業におけるICT活用研修を年1回以上実施する。 教員のICT機器利用率75%以上	6月に、ロイノート活用の研修会を実施した。 電子黒板の導入とともに、教員の機器利用が増加しており、ICT機器利用率9.4%であった。	数値目標は達成できたが、年度の後半には、新端末、新校務支援システム、入試の対応に追われる結果となった。	ある程度のレベルに達するためには、数年かかると思われる。アナログとのハイブリッド指導が大切ではないかと思われる。トライアンドエラーでチャレンジしていくこと、研修とICT利用促進をお願いします。	6月に、ロイノート活用の研修会を実施した。電子黒板の導入とともに、教員の機器利用が増加している。電子黒板の利用に関する研修会も検討する。令和6年度入学生は、1学期からのBYOD端末導入を計画している。教員のICT活用指導力等の実態調査を3月に実施するため、この評価総括表に反映させることが難しい。教員の働き方改革の観点からも、「同じような内容のアンケート」を複数回依頼することもできないので、関係機関と相談して改善策を見極める。
3.働く意欲と働く力をはくむ	学校における働き方改革	勤務時間の縮減に努め、健康管理区による面接指導対象者をゼロにする。 先生方の学校満足度調査の肯定的な意見が80%以上	健康管理区による面接指導対象者を昨年より減少させる。 先生方の学校満足度調査の肯定的な意見が70%以上	本年度1月までの段階で、健康管理区による面接指導対象者はいない。先生方の学校満足度調査の肯定的な意見は73%となった。また、ペーパーレス化を推進すると共に、定時退校日を導入し先生方の業務負担軽減に努めた。	年度末の目標値以上の結果を残した。ただ、ストレスチェックの結果が昨年より悪化した。	県立学校の先生方は、特色ある学校づくりのために、土日に宣伝活動をされることも多いと聞きませ。据体等を活用して体を壊さないよう努めていただきたい。働きやすい職場づくりを共有し、業務負担軽減をしていただきたい。	指導対象者をゼロにするために、フレックス勤務等を積極的に活用して先生方の在職時間の縮減を図る。肯定的な回答を増やしてもくする。風通し良く、ストレスのない職場になるよう学校衛生委員会等と協議を行う。
	キャリア教育の推進	SSシートを毎朝記入100%	SSシートを毎朝記入95%	1学年は2学期からタブレットでの入力に移行したが、全体では92%の記入となっており、令和5年度末の目標値を上回ることはできなかった。	SSシートの有用性は認められるものの、教員の負担がかなり大きい。	実施した際の有用性と教員の負担のバランスが難しいですね。端末を利用してのSSシートの継続を期待しています。教員の負担が大きくなりすぎないように継続しながら継続する必要があるのではないのでしょうか。SSシートを効果的に活用できるように努めます。	選別生徒等への対応が課題である。担任が内容を確認し、フォローする時間を抽出し対応する。
	進学先・就職先・学科関連施設・機関との連携	特別非常勤講師、社会人講師等、外部講師による「出前授業」を、各学年・学科年度2回以上実施	特別非常勤講師、社会人講師等、外部講師による「出前授業」を、各学年・学科年度3回以上実施	従来の特別非常勤、社会人講師に加え、大学の出前授業や専門職の仕事に携わっている卒業生からの講演会等を行った。	年度末の目標値を達成できた。生徒・保護者等とともに、学校満足度調査については、評価結果の分析に記入する。	他者との関わりの中で学ぶことは意義のあることだと思いついて計画的に取り入れていただきたい。今後とも目的意識向上につながるよう期待する。	意欲的に学習に取り組む生徒が多くなりました。生徒の進路選択と学習との関連を考慮しながら、講師の選定を行う。今年度以上に、目的意識を向上させるよう説明をしっかりと行う。
4.地域と協働して活躍する人を育てる	実習・インターンシップの充実	施設実習・インターンシップへの生徒の高校・専攻科在籍中参加率85%以上	施設実習・インターンシップへの生徒の高校・専攻科在籍中参加率75%以上	こども・福祉科の施設実習への参加率は96.8%、長期欠席者が不参加だったため、参加率が低下した。長期インターンシップ実習は、12月に2週間こども園へ実習を実施した。専攻科の施設実習は計画どおり実施できた。参加率は100%である。	コロナの影響が少なくなり、計画通り実施できた。来年度も計画通り実施できるように準備していきたい。	こども・福祉科の受検者数減、世の中全体の風潮もあり大変かと思いますが、よろしく願います。条件面の改善も望まれているようですが、奈良県全体でのバックアップが必要。他者との関わりの中で学ぶことは意義のあることだと思いついて計画的に取り入れていただきたい。インターンシップの意義を体験し、大切に充実させてやっていただきたい。	今後も施設の理解を得ながら施設実習及びインターンシップを充実させる。冬期、春期の参加を促すために、案内文の教室掲示と説明をおこなう啓発する。
	学校運営協議会の運営	学校運営協議会の年度2回開催	学校運営協議会の年度2回開催	第1回の学校運営協議会を7月11日(火)、第2回の学校運営協議会を2月26日(月)に開催した。	目標値、年度2回開催を達成した。積極的な話し合いが行われ、学校運営に関わる意見も出されるようになってきた。	資料が見づらいのでページ数等をつけてもらえれば、教頭先生にかなりの負担がかかっているように思えるので、コーディネーターを務める人材が必要だと思えます。忌憚のない意見交換ができるように期待します。	より一層、活発な協議が行われるよう、準備段階からしっかりと調整し、特色ある学校づくりの牽引役となる協議会に発展させたい。
	郷土の伝統・文化、自然等に関する学習の推進	校外学習、修学旅行、及び長期休業中の課題を含めた学びによる「奈良TIME」の学習成果の発表の機会を年間3回以上設ける。専攻科基礎科目「地域の生活」における宇陀の伝統・文化等に関する学習について、外部講師を招いた授業を年間10時間以上行う。	校外学習、修学旅行、及び長期休業中の課題を含めた学びによる「奈良TIME」の学習成果の発表の機会を年間3回以上設ける。専攻科基礎科目「地域の生活」における宇陀の伝統・文化等に関する学習について、外部講師を招いた授業を年間9時間以上行う。学習の成果を発表する場を設ける。	「奈良TIME」の学習成果について発表する機会を年間1回以上設ける。専攻科基礎科目「地域の生活」における宇陀の伝統・文化に関する学習について、外部講師を招いた授業を年間9時間以上行う。学習の成果を発表することができた。	年度末の目標値をほぼ達成できた。	成果発表会に我々も含む皆さんの地域住民に参加していただけるよう工夫していただければありがたいです。地域理解をさらに深められることを期待します。	これら外部講師授業を4回計している。地域の方々にも授業の取組を知っていただく場を設ける。
5.地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	宇陀市一帯(郡・町村)・宇陀高等学校・奈良県教育委員会・奈良教育大学の包括連携に基づく保育・幼児教育施設、小・中学校との連携	保育・幼児教育施設、地域行事での生徒によるボランティア活動を年度5回以上実施	保育・幼児教育施設、地域行事での生徒によるボランティア活動を年度5回以上実施	「縁原あいきこい祭り」宇陀子どもフェスタにはこども・福祉科の生徒を中心に多数が参加した。阿紀神社「蜜籠」やアマンハーツ「ほんのりあんどん」、放課後等デイサービス「かがやキッズ」などにも本校希望生徒が多数参加した。	参加希望がなかったためにお断りした地域行事もいくつかあったが、年間延べ約140名(生徒活動推進部)ととりま行事が参加した。	小中との交流について、地域の特性を生かしたものが少しづつでも始められれば願う。継続していただくことがたいです。他者との関わりの中で学ぶことは意義のあることだと思いついて計画的に取り入れていただきたい。中学校との教員交流を進めていただきたい。	実施時期や実施内容等を再検討し充実したものにしたい。小学校へのスポーツテスト補助授業への生徒の派遣や、中学生と共同清掃作業を検討している。
	地域と共にある学校づくりの推進	保育・幼児教育施設、地域行事での生徒によるボランティア活動を年度5回以上実施	保育・幼児教育施設、地域行事での生徒によるボランティア活動を年度5回以上実施	「縁原あいきこい祭り」宇陀子どもフェスタにはこども・福祉科の生徒を中心に多数が参加した。阿紀神社「蜜籠」やアマンハーツ「ほんのりあんどん」、放課後等デイサービス「かがやキッズ」などにも本校希望生徒が多数参加した。	参加希望がなかったためにお断りした地域行事もいくつかあったが、年間延べ約140名(生徒活動推進部)ととりま行事が参加した。	地域行事への取組が、学校のイメージ改善に大きく寄与していると感じている。他者との関わりの中で学ぶことは意義のあることだと思いついて計画的に取り入れていただきたい。地域の高齢化のせいもあって、高校生の「ワー」を必要とされているケースも多いと思われます。精進と地域の連携を大切にされて、良い経験させてください。	ボランティア活動は休日に活動することが多く、学科以外のボランティアもあり生徒の休息の時間を取る必要があるのでは行事の精選を行わなければならない。
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	いじめアンケートの年度2回実施と、確認されたいじめ全事象の早期解消	いじめアンケートの確実な実施と、確認されたいじめ全事象の早期解消	把握できたいじめについては、きちんと対応できた。	万全の体制でいじめに対応することができた。	積極的な認知をした上で、適切に対応していただいているものだったと思つた。引き続きよろしく願います。生徒アンケートでも「いじめが少ない」と書かれていましたが、見えにくいものであるだけに、今後アンテナを張っていただきたい。情報の共有が即座に対応できますよう、今後とも職員との連携と研修を願う。	得られた情報を、関係者で即座に共有することができるように、全教員の意識を高めるべく、日頃から研修を深める。
特別支援教育推進委員会による支援の推進	対象となる生徒の状況についての全教職員による共通理解の場を年度5回実施 スクールカウンセラーや外部機関との連携により具体的支援の検討と生徒・保護者への支援・助言の提供	年度当初、および学期の中間・学期末に全教職員による生徒情報についての共有の機会を設け、その対応・支援のあり方について確認を行う。また必要に応じて個別の教育支援計画について、来年度以降の展開に向けて、第1学年においてHR担任と教科担任との間で、個別の教育支援計画の共有を各学期末を中心に行い、指導のあり方や指導上の留意事項の交換することができた。	個々の生徒の情報について、年度初めの研修会をはじめとして、学年会議や、学期・学年末の成績会議等の機会を生かして適宜交換し、共通の認識につなげて行くかについて情報の発信に弱いところがあったように思う。個別の教育支援計画については、来年度以降の展開に向けての準備が整った。	最近の生徒は自尊心が低い生徒が多いように感じるので、他者とのつながりの中で自己有用感を味わえる学習活動を一層推進していただきたい。今年度の反省を活かして、さらに来年度の展開につながるよう、よろしく願います。	入学時の個々の生徒の情報を精査し、個別の教育支援計画の立案・運用を生徒指導部と入権教育部で連携を図りながら進めている。また、研修会・会議の場において、常に見直しや改善を加える。		
多文化共生教育の推進	外国人生徒が在籍する専攻科と高校の合同授業や学校行事を学期に1回は実施	入学式・卒業式等の学校行事とともに参加するとともに体育大会・文化祭などの学校行事でも時期と場所を共有できるようにする。また、福祉関連の授業にあっては可能な限りの合同授業を行いその交流をはかる。	2月に介護福祉系別高校3年と専攻科2年がチーム合同授業を実施した。	計画的に実施することはできなかったが、大宇陀学園では専攻科と高校生と一緒に活動する事ができた。しかし専攻科生徒と棟原学園生徒と交流する機会をつくることは難しい。	アンケートの生徒の言葉の中に、棟原学園と大宇陀学園の格差についての不満が多く見られたのが気になりました。大宇陀学園の生徒の不満の解消を図る必要性を感じました。少しづつ少しずつ生徒たちの良さが、行動を通して地域の人々への輝きへとつながりますよう期待します。	まずは棟原学園勤務と大宇陀学園勤務の間における意思の疎通を図る。宇陀市と専攻科生徒が一纏まり、高校生対象に認知症サポーター養成講座実施を計画している。	

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

学校満足度調査において、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した生徒が82%である。保護者等においては、「棟生昇陽高校・宇陀高校に入学させて良かった。」という項目に対し、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」との回答が、1学期・2学期ともに91%との評価を得ており、本校の教育活動に対して一定の理解が得られているものと捉えている。教職員の業務に対する意識は高く、ICTの活用を含む授業改善をはじめとして、スキルアップに取り組んでいる。また、宇陀市にある唯一の県立高校として地域連携を積極的にすすめ、「地域から愛される学校」となるように尽力するとともに、地域資源を活用したキャリア教育の実現を期していきたい。
